

四八七〇 「通塞」

経緯なる者は條理の大綱なり。

四八七一

没中は則ち能く剖對す、

四八七二

露中は則ち能く通塞す、

四八七三

通は以て時を爲す、

四八七四

塞は以て處を爲す、是れ乃ち

四八七五

物の宅する所なり、

四八七六

期の路する所なり、

四八七七

時は則ち宙なり、袞袞として移る、

四八七八

處は則ち宇なり、塊塊として住す、

四八七九

住する者も亦た移る、

四八八〇

移る者も亦た住す、

四八八一

鬱淳混淪の中。

四八八二

神は爲し天は成す、

四八八三\*

宇は容れ宙は率ゆ、

四八八四

宇は容れ宙は居る、

四八八五

宙は率い期は従う、

四八八六

期なる者は物の經なり、

四八八七

物なる者は期の緯なり、

四八八八

物は其の體を緯に寓す、

故に

四八八九  
 四八九〇  
 四八九一  
 四八九二  
 四八九三  
 四八九四  
 四八九五  
 四八九六  
 四八九七  
 四八九八  
 四八九九  
 四九〇〇

氣は其の期を經に引く、故に  
 處は物を得て體を託す、  
 時は期を得て神を見ず、  
 物なる者は。神と物となり。  
 神は衰衰に爲成す、  
 物は塊塊に散結す、  
 爲成は能く始終を循環す、  
 散結は能く大小を布列す、故に  
 散結の間、大小は並び立つ、  
 始終の間、長短は競い走る、  
 塊塊に居りて窺せず、以て天地の大を見る、  
 衰衰に従いて窮らず、以て運轉の長を觀る、

(PB 364)